

プロジェクト名 | 「住み続けられる家」～ヘーベルハウス グリーン&レジリエンス プロジェクト～

レジリエンス措置の内容

- <想定するリスク（課題）およびその背景・必要性>
- あらゆる災害（地震・火災・暴風）の激甚化への対策と地球温暖化対策
 - 地震発生時の、被害が深刻化しやすい都市部を中心とした 電力確保・在宅避難実現の必要性への対応
 - 災害復旧時の早期対応実現のための 重点復旧地点の見極め、および 全ての当社建築居住者の精神的安心の必要性
- <提案・解決策>
- 平常時：当社、環境貢献&レジリエンス商品「earth-tect」による再生可能エネルギーに創出・自家消費による地球環境保全
 - 発災時：重量鉄骨造とALCコンクリート・ヘーベル、防災安全ガラスによる耐震・耐火・暴風対策の実現
 - 発災直後：太陽光発電＋蓄電池による、停電発生時の電力確保。貯湯タンク付き高効率給湯機による生活用水 および 飲料水貯留タンクによる 飲用水の確保。これらによる、極力不自由ない在宅避難の実現
防風時の飛来物等に起因するガラス等の屋内飛散物によるケガ等のリスク回避
 - 復旧・回復期：当社サービス【ONGLIFE AEDGiS】による、被災地重点復旧箇所の見極め および 全ての当社建築居住者の精神的安心の実現

提案内容の先導性	提案内容の実現可能性	提案内容の普及可能性
・ 居住期間だけでなく、建設から廃棄までの住宅の生涯CO2排出ゼロを目指す先導的建築。 ・ 復旧期の早期対応 かつ 当社建築居住者全ての精神的安心を実現する先導的サービス。	・ 既存アイテムを平時の利用・経済的効果も実現しつつ、レジリエンス視点で組み合わせることで、十分な実現性を備える。 ・ 災害時サービスを当社建築と当社顧客のみに留めず、広く建物全般 企業の枠を超える防災取組とすることで、レジリエンス向上に寄与する。	・ 平均寿命の延伸も見据え、断熱性の向上とともに、レジリエンス性の向上をハード面・ソフト面の両面からアプローチすることで、継続的・長期的視野での普及を促すことができる。

効果検証の方法

通常の方法	災害が発生した場合に、特別に実施する方法
毎月の発電量・買電量のデータ計測と、一般住宅との比較検証。 災害時に迷わず使用できるように、建築竣工時の電力確保、生活用水・飲用水確保を体験操作する。 模擬災害想定でメール配信・アンケート回答・返信頂く。	実際の災害時サービスの本発動。 ・ エリアごとの被害状況の確認 ・ 被災者宛のメール配信・アンケート回答・返信 ・ 重点対応地域からの復旧作業開始